

薬学研究科 薬科学専攻(博士前期課程)

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

薬学研究科薬科学専攻(博士前期課程)は、次に掲げる資質・能力を醸成し、さらに本専攻のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された人に対して修士(薬科学)の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる社会でリーダーとして活躍できる能力
- 薬科学の素養を身につけた高度専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 医薬品、化粧品(化粧品)成分、食品成分、生活化学用品による生体作用を、最新の生命科学の進展の成果に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した化粧品(化粧品)の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した機能性食品の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した生活化学用品の開発・研究・情報提供、健康と医薬品を政策面・管理面から広く評価・実践、のいずれかができる能力
- 薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、人々の健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科薬科学専攻(博士前期課程)では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の醸成のために以下のカリキュラムを設定しています。学習の成果は、定期的な形成的評価、最終段階での総括的評価で評価します。

- 先端薬科学特論、総合薬科学演習を含む各分野の特論・演習を選択・必修科目として、高度で専門的な知識の修得および学識の涵養を図り、グローバルな視野をもち、社会の維持・発展に寄与する専門職業人を養成します。
- 特論演習では、それぞれが専門とする分野において求められるスペシャリストとしての高度な知識と技能の修得を目指します。
- 修士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価を目的とした定期的なディスカッションをとおして課題研究を遂行し、最終的に修士論文として完成させることにより高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

薬学研究科薬科学専攻(博士前期課程)では、城西大学の建学の精神と薬学研究科ならびに

本専攻の教育研究上の目的を理解するとともに、本専攻のディプロマ・ポリシーに示す資質・能力の修得を目指す以下のような人の入学を期待します。

- 自然科学における基本的な知識を発展させ、グローバルレベルで研究推進能力を人々のために活用しようとする強い意欲のある人
- 薬学的視点に立って、安全性を考慮した医薬品、化粧品(化粧品)、機能性食品、生活化学品の開発、製造、研究、情報解析に関して専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある人
- 薬学分野のみならず、薬学分野と化粧品分野もしくは食品・栄養分野の中間に位置する Pharma-cosmetics や Pharma- Nutrition 分野(薬科学分野)にも立脚した薬科学の学問領域を発展させたいと思う意欲のある人
- 薬科学専攻(博士前期課程)において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人
- 医薬品や健康に関連した政策や経営学に興味をもてる人
- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えると同時に、倫理的な態度をもってそれらの解決に意欲的に努力する人

入学者の受け入れは、以下の点に留意して実施します。

- 本専攻の教育研究上の目的に相応しい人材を面接試験により評価・審査します。
- 卒業研究などのこれまでの研究経験に関するプレゼンテーションにより、基本的な研究能力とプレゼンテーション能力を評価・審査します。
- 薬学の研究をする上で必要な英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学の理解度を評価・審査します。

(2022年4月入学者用)